

枚聞神社

この神社の創設年は不明ですが、860 年の史料に言及が見つかることから、枚聞神社は日本で最古級の神社と考えられています。開聞岳のふもとという神社の立地から、歴史研究者は枚聞神社の起源は山岳信仰に関係している可能性があるとしています。

海岸沿いにある開聞神社には、古くから、本殿に祀られている航海の神に参拝するために琉球諸島（現在の沖縄）の船乗り、旅人、および使節が訪れました。現在の神社は 1787 年に島津家によって再建されました。この建物は、鮮やかな朱色のアクセントを伴う江戸時代の建築の優れた史料です。宝物殿には、国の重要文化財に指定されている松梅蒔絵櫛笥という漆の箱があります。